

## 展示記録

### 安曇野市文書館開館5周年記念「残した 伝えたこの5年」 (2023年5月14日～8月31日)

平沢 重人

#### 1 はじめに

2018（平成30）年10月1日に開館した安曇野市文書館（以下、当館）は、今年開館5周年を向かえる。この5年間のあゆみを①収集、②保存利用、③普及啓発、④調査研究の視点で振り返り、市民の皆様の当館への関心をより一層深めると共に、安曇野市が文書館を持つことの意味や課題について理解を広める機会とする。また、収蔵資料の中で、地域の情報誌として旧自治体や公民館が発行してきた広報紙や刊行物を展示し、安曇野地域の近現代の政治や生活、文化についての理解を深める。

#### 2 写真で見るこの5年

##### (1) 収集・保存利用

当館の設置目的は、安曇野市文書館条例第1条に「歴史的若しくは文化的価値を有する公文書等を収集し、保存し又は広く利用に供することにより、市の教育、学術、文化及び生活の発展に寄与するため」とある。安曇野市では、古文書等の地域資料は2009（平成21）年から、公文書は2012（平成24）年から収集・保存に取り組んできた。

地域資料については、開館後毎月2件ほど所有者から相談をいただいている。長持<sup>ながもち</sup>、箆笥<sup>たんす</sup>、行李<sup>こくり</sup>などに大切に保存されてきた資料である。お預かりした資料は、燻蒸、撮影、調査（目録作り等）を行う。所有者からの寄贈又は寄託（原本は所有者が管理し、複写資料の管理を文書館が持つ）の申請を受けて、市民の皆さんに提供することができる。新型コロナウイルス感染症対応緩和の影響もあり、令和4年度は、大学の研究者を含め、多くの利用者の来館があった。



「下堀区有文書」についての現地調査  
2021（令和3）年3月19日



撮影のための資料整理の様子  
2023（令和5）年3月28日



広報紙から災害調査をする中学生  
2020（令和2）年9月2日

学校資料から戦時生活の調査をする大学の先生方  
2023（令和5）年3月28日



## (2) 教育普及・調査研究

市民の学術、文化及び生活の発展に寄与するための教育普及活動や調査研究に取り組んできた。

〈教育普及〉

- ・ 収蔵資料を紹介する企画展（収蔵資料を紹介する企画展を毎年、前後期の2回行う）
- ・ 企画展に関連した講演会や講座（企画展に関連した講演会や講座は、32回を数える）
- ・ 古文書解読講座（「ここから始める古文書解読初級講座（全5回）」を5回行う）
- ・ 文書館への理解を深めるためのバックヤードツアー
- ・ 出前講座
- ・ 出前授業
- ・ 収蔵資料目録のWEB公開

〈調査研究〉

- ・ 調査研究の成果『安曇野市文書館紀要』の発刊
- ・ 安曇野市誌編さん事業（令和2年度より安曇野市誌編さん事業が開始される）
- ・ 地域資料の積極的な調査及び整理（地域の古文書勉強会の皆さんと協力し、収集した地域資料の調査を行う。空き家対策事業や区長会を利用して、地域資料の積極的な収集を行う）



令和3年度前期企画展「多元主義社会を生きる～自由主義擁護の旗手 清澤洌～」



開館記念講演会「人物顕彰と文書館」  
2018（平成30）年12月2日



堀金中学校2学年 出前授業  
2022（令和4）年4月27日



バックヤードツアー  
2023（令和5）年2月26日

## 2 数値で見るこの5年

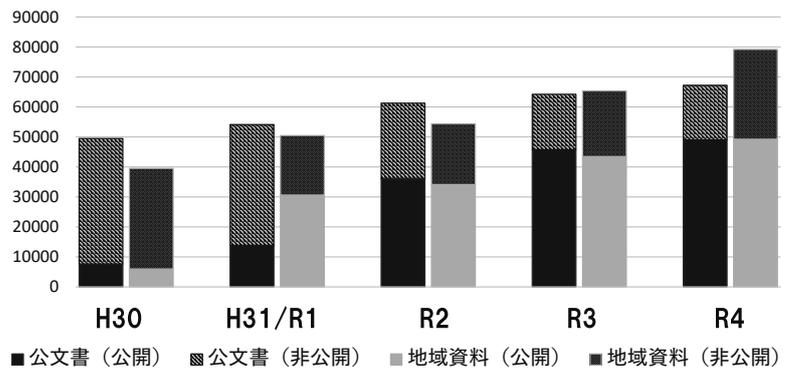
### (1) 収蔵資料

令和4年度末現在の収蔵資料点数は、公文書67,231点、地域資料79,174点、合計すると146,405点になる。2018（平成30）年10月1日開館時59,117点であった資料は、約2.5倍となっている。収蔵資料の推移やその内容について数値で紹介する。

#### ① 資料点数の推移

この5年間、毎年約15,000点ずつ収蔵資料数が増加していることがわかる。公文書は、毎年3,000点程度が移管されている。ちなみに市役所では公文書が毎年100,000点程度作成されるので、約3%の文書が歴史的な文書となっていることになる。収蔵数が増加した主な要因は地域資料である。受入れ件数は、毎年30～40件（1件の受入れに数点～数百点の資料が含まれる）で安定している。

収蔵資料の点数（累積）



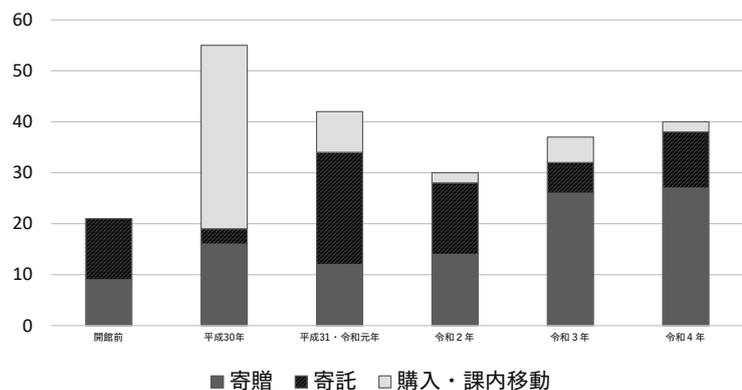
#### ② 資料の公開

収蔵資料点数の増加と併せて、公開点数も増加している。ただし、公開率を見ると、地域資料は低く、60%弱となっている。受入れ資料の目録作りや撮影といった資料整理に時間と手間が必要となることが、公開率が伸び悩んでいる主な要因となっている。

#### ③ 地域資料の受入れ

寄贈と寄託の割合を見てみると、所有者からの寄贈が半数を占めている。なお、課内移動とは、文書館が開設されたことにより、以前まで豊科郷土博物館や図書館等に所蔵されていた資料が文書館に収蔵場所を変えたことを示しており、開館当初に多くなっている。

地域資料の受入れ件数（寄贈・寄託・購入・課内移動）

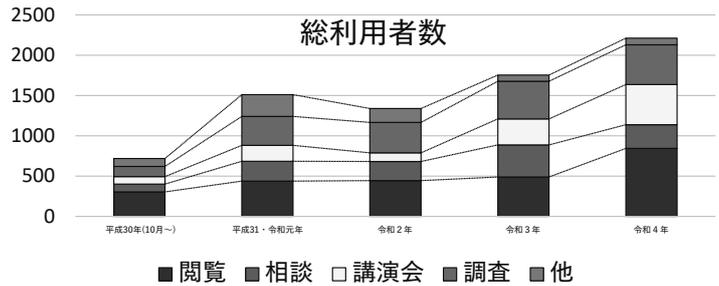


### (2) 利用者数

長野県内には、市町村立文書館が7館ある。その中で所管が教育委員会となっている館は、安曇野市を含め3館である。安曇野市文書館条例第1条には「市の教育、学術、文化及び生活の発展に寄与するため、安曇野市文書館を設置する」とあり、これが当館が教育委員会の所管となっている根拠である。この設置目的を評価するひとつの指標として、文書館利用者数の推移を紹介する。

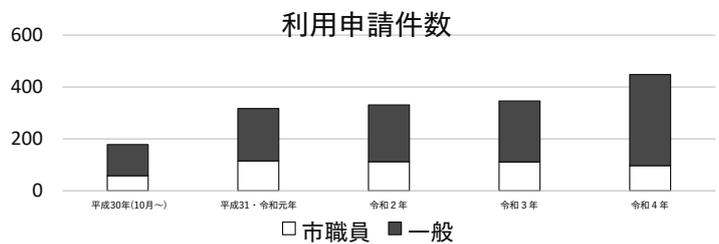
### ① 総利用者数

グラフでは、企画展の参観や、収蔵資料を利用する来館者を「閲覧」として扱っている。閲覧者以外に、相談の件数や講演会に参加された方、調査活動に参加された方の総数を見ることで、当館利用者の全体像がわかる。利用者は年々増加傾向にある。令和2年度が減少しているのは、新型コロナウイルス感染症対策により、講演会や調査活動を縮小したことによるものである。



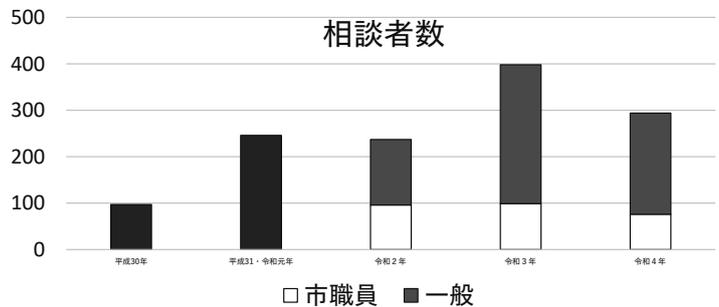
### ② 利用申請件数

資料を利用（閲覧、撮影）するためには、利用申請が必要である。市職員と一般の方とを併せた利用申請の件数は、年々増加していることがわかる。特に一般の方の伸びが顕著である。令和4年度には、新型コロナウイルス感染症対策が緩和されたことにより、大学の研究者が多く来館された。市職員の利用も年間100件前後で推移している。担当課職員が市政や市民への対応に文書館を活用していることの表れと考えられる。



### ③ 相談者数

令和3年度は相談者数が多くなっている。新型コロナウイルス感染症の流行のため来館することができない方が、電話等で問い合わせをするケースが増加したことが要因として考えられる。



## 3 課題

開館から5年が経過し、利用者数や相談者数も増え、市民の皆さんの間でも少しずつ当館の認知度が高まってきた。一方で課題も明確になってきている。文書館運営審議会委員の意見を反映させながら、改善に向けて一歩ずつ進めていく必要がある。

### (1) 認知度について

実態調査はしていないが、当館の場所についての認知がタクシードライバーでも低いと言われている。これは図書館や博物館、美術館等に比べてまだまだ市民に浸透していないことのあらわれだと考えられる。

### (2) 再生不能資料（8mmフィルム・オープンリール・VHS等）について

電子機器の進歩に伴い、以前の音声や映像資料が再生できないという状況が生まれている。当館には、

該当資料が1,500点ほど収蔵されている。旧町村時代に企画・開催された事業の資料も多く含まれている。

(3) 地域資料の被災や散逸対応について

東日本大震災や令和元年台風第19号災害等の自然災害が発生した時には、民家に収蔵されている多くの古文書等の地域資料が被災した。また、当主の世代交代等により収蔵資料が廃棄されたり、市場に流出したりという事案が発生している。所有者とは、年度末に情報共有する機会を設けているが、被災した際の対応について確認することが必要と考える。また、資料収集については、相談を待つという受け身の姿勢ではなく、こちらから所有者に声掛けをしていく方針で進めている。

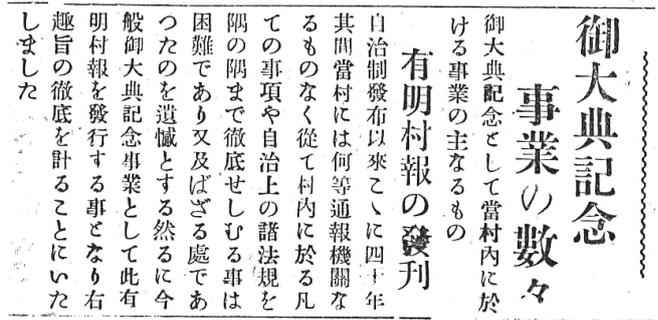
4 広報紙から時代を見る

自治体などの公的機関が発行する広報紙は、「広報あづみの」や「市議会だより」等、多岐にわたっている。当館には、戦前の広報紙としては「有明村報」1紙が収蔵されている。戦後、1946（昭和21）年7月に文部次官通牒「公民館の設置について」が示された。公民館設置に併せて、各町村では「公民館報」が発刊されている。当時の「公民館報」には、社会教育活動以外に町村政、経済等多方面の情報が掲載されている。それがその後の「町村報」の発刊につながっていく。

(1) 創刊のいきさつ

「有明村報第1号」は、1928（昭和3）年12月28日に発行された。有明村では、今上陛下即位を祝う「御大典記念事業」のひとつとして村報発行を決定している。

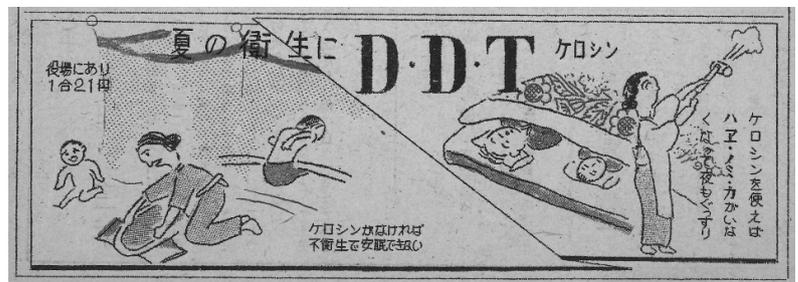
「豊科公民館報」創刊号は、1950（昭和25）年9月20日の発行である。館報発行の辞として、折井満公民館長が「公民館報は、町政の報道や町内各方面の状況各種の動向等を報道するのみで無く、(略)之の幾多の御意見を輿論として尊重し公民館運営に資し度いと存じます」と述べている。また、三澤巖豊科中学校長は公民館報を「町民の友とならんことを祈念する」と述べている。



「有明村報第1号」1928（昭和3）年12月28日

(2) 時代を映す広報紙

安曇野市合併前、旧5町村の広報紙は、毎月発行されていた。紙面を見ると町村政以外に農事、教育、観光、文芸の投稿などを見ることができる。当時の町村民の生活や文化などを時系列で知ることができる。戦後、青年団や学校PTA活動なども盛んになる。その中で、活動の内容を多くの人に知ってもらおうと、各団体から機関紙も発行される。紙面を通して当時の人たちの意識や考え方を知ることができる。



「東川手広報第10号」1950（昭和25）年7月25日

「東川手広報第10号」では、現在は使用禁止となっている薬剤DDTを斡旋している。「西穂高公民館

報第4号」を見ると、1940（昭和15）年から始まった砂糖の配給制が、戦後も継続していたことがわかる。乳児であっても、母乳栄養児や混合栄養児、人工栄養児で配給に違いがあったことがわかる。1962（昭和37）年10月1日発行の「堀金公民館報第21号」では、1957（昭和32）年から5年をかけて完成した第二拾ヶ堰の事業について総括している。1957（昭和32）年12月25日、堀金青年団は機関紙「堀金1号」を発刊する。青年団活動の紹介や入団者の寄稿文が掲載されている。

### 5 おわりに

2018（平成30）年10月1日の開館セレモニー及びイベントとして企画した「開館記念講演会」（9月30日）は、台風24号の襲来により、中止された。改めて12月2日に実施された記念講演会に、全史料協（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）の定兼学会長が来館。開館したばかりの当館への力強いエールとなり、翌年の全国（安曇野）大会へとつながる。

2021（令和3）年10月3日と今年の7月23日には当館資料を利用している皆さんによる研究発表会を開催した。2021（令和3）年は、古文書に焦点を当て発表会で、当市で活動している3つの研修団体の参加を得た。今年、2023（令和5）年は近現代の資料から得られた成果を信州大学の学生が発表してくれた。当館の設置目的は、文書館条例第1条に「公文書等を収集し、保存し又は広く利用に供することにより、市の教育、学術、文化及び生活の発展に寄与するため」（抜粋）とある。今後も収集保存と利用活用、両輪の駆動を大切に進めていきたい。

今年、2023（令和5）年4月28日、当市保健医療部が記録してきた新型コロナウイルス感染症に関わる新聞や報道全般の資料の扱いについて相談を受けた。公文書ではないが、後世、新型コロナウイルス感染症についての理解を深めるうえで重要な資料のひとつとなると考えたからである。当館の役割が市職員に浸透してきた表れのひとつと考える。

## 砂糖の配給につらて

### A 乳児用及び妊婦用

②混合栄養児用及び人工栄養児用は右の外指定医（塚原の福福先生）の証明書が必須です

一問 乳児は乳児用と一般家庭用両方受配出来ませんか  
 答 乳児用だけです

二問 乳児用の種類と配給量を御示し下さい  
 答 1、母乳栄養児用三〇〇瓦  
 2、混合ノ 六〇〇瓦  
 3、人工ノ 一五〇〇瓦

三問 乳児用の受配手続を御示し下さい  
 答 ①母乳栄養児用は出生届を済ませてから母子手帳と印鑑を係へ提出下さい交付

四問 乳児用は何才まで受配出来ませんか  
 答 原則として満一才までです

五問 乳児用から一般家庭用に切り換える場合の手続を御示し下さい  
 答 乳児用砂糖購入登録原票と印鑑を持参下さい、右原票と引換えに一般家庭用の通帳を交付します

六問 妊婦用は妊婦何カ月になる

### B、病人用

一問 病人用の砂糖の配給がありますか  
 答 ありません

二問 どの医者はあると言いつて証明書を下さいましたか  
 答 医者が何んと申しましても今の処そういう調子はありません

### C 一般家庭用

一問 去る五月嫁を置きましたか最近配給になりましたか  
 答 砂糖だけ当村で受配する事は出来ません

二問 小生二、三カ月出張に行くとありますが、主食の配給だけ輸出証明書を持って行つて砂糖は当村で受配したいのですかそういう事が出来ませんか

三問 配給係

「西穂高公民館報第4号」  
1950（昭和25）年8月7日

## 企画展関連講座「安曇野を“残して伝える”」

### 1 趣旨

安曇野が持つゆかりの先人や史跡、産業等の文化資源を今日まで記録し、伝えてこられた講師である中島博昭氏の思いを知ることにより、安曇野市文書館が地域にあることの意味や役割について理解する。

### 2 日時

2023（令和5）年5月21日（日） 午後1時30分～午後3時

### 3 講師

中島 博昭 氏（郷土史家）

\*この講座の記録は、当館収蔵記録DVDにより、文書館多目的室で視聴できる。

## 企画展関連講演会「歴史公文書は、なぜ残すことが重要なのか～安曇野市文書館史料から考える～」

### 1 趣旨

当館の検討委員、審議員として係わってこられた瀬畑源氏による講演を通して、公文書を保存・公開することの重要性について理解を深めると共に、地域の宝としての文書館の存在意義を考える。

### 2 日時

2023（令和5）年6月18日（日） 午後1時30分～午後3時

### 3 講師

瀬畑 源 氏（龍谷大学准教授、長野県公文書審議会委員、安曇野市文書館運営審議員）

\*この講演会の記録は本号76ページより掲載している。

## 企画展関連研究発表会「文書館収蔵資料を活用した事例報告～『家屋建坪調査帳』『青年学校資料』～」

### 1 趣旨

文書館開館5周年企画として、研究発表会「文書館収蔵資料を活用した事例報告会」を開催することを通して、文書を収蔵・保存することの重要性について理解を深めると共に、地域の宝としての文書館の存在意義を考える。

### 2 日時

2023（令和5）年7月23日（日） 午後1時30分～午後3時

### 3 講師

山口 美空 氏（信州大学工学部建築学科梅干野教室）

平沢 重人（安曇野市文書館館長）

\*この研究発表会記録は、文書館にて「講演会、講座資料」として閲覧できる。